

改正三河後風土記

三拾九

蕃拾參冊

第 四

210

ナ

1-39A



汶三河暖風亮卷第一卷

目錄

一 大須賀忠政英坂部之世族今自軍中

目取之事

一 岡原隆子物見之事

一 岡原隆陣傷身先子合戰之事

一 忠吉君之名月如多父子合戰之事

一 諸子改戰身合吾黃門裏切之事

一 大谷平隊戶田討死身西軍敗走之事

一 諸將所本陣 春湯之事



1-39A

改正所後風光卷第二路九

大圓堂忠及茶坂部久世岩下軍中

日記

享長五年 庚子九月十日赤坂岡山の山陣

其不属坂部三十部、唐澤久世三郎、廣宣

子、町尾物左、治末、最九郎、伴、最、一、物、藤、瀬、

左、更、鶴、山、傳、八、部、濱、井、九、部、屋、角、拓、地、中、部

治、末、角、左、更、中、古、光、の、者、と、所、兼、一、と、て

仍、古、中、の、も、も、は、古、朋、の、忠、致、事、八、部、原

式、部、大、輔、唐、政、の、嫡、子、也、り、と、い、へ、と、も、外、祖、父

大願夜部は賢く席言は男子好ましく、也へ
忠及外孫のちぢみを以て、世まとも、家産、
世人と教へ、其法軍の徳は洋たり
如か今も上方、遂後徳代、のる後白きり、
及ひ父の康政ハ、中納言の佐一佐州
上田へ、進後、以忠政、又は、実考、小十郎康房
と古く上州、信濃の地を守護せ、と今
せ、如忠政、教も、去天、正十八年、小田原
陣、も、僅く、十二、年、た、り、上、海、中、佐、
一、子の、若、く、軍、さ、せ、酒、匂、川、の、色、り
依、を、以、て、一、戦、の、切、を、初、に、初、人、今、も

上方、口、を、以、て、一、は、滅、は、天下、自、然、と、云、
分、同、の、一、戦、弟、家、安、名、付、時、も、移、大、切、の
時、も、忠、政、幸、今、年、ハ、女、二、歳、信、林、一
二、も、世人、月、頗、ち、多、く、と、云、一、忠、政
康、政、の、始、り、も、一、も、尚、付、外、祖、大、願、初、ま、り、
家、を、以、て、一、ハ、大、願、初、の、軍、役、を、初、一、分、の
軍、切、を、初、り、初、信、林、は、康、房、直、光、の、後、
と、も、信、林、守、護、仕、也、ハ、何、の、忠、也、と、云、
一、向、佐、奉、を、教、不、甚、志、弁、物、也、と、云、今、分
の、信、加、へ、世、り、外、祖、康、言、と、云、實、父
康、政、と、云、信、は、不、覚、哉、取、さ、る、勇、士、也、

了 然ふさふさといひて悉刑去けし最の
謀も不審ぢうといひた概して其事
ぢうといひ之難き也 姑く不審の終り
記しぬ 何れも西塞といひる事 及
其家の禁忌といひる事 法ぢう其昔
周の武王殷の討まを伐殺し一討
大雷大雨といひて旗旌皆破きし一及
諸軍大に驚き散直生及卜並して
を殺せし止し一又大空少し一も為るに
亀も蓍も破し一軍勢城をぬる魯揚
の誓成す一終り殷討を止し一周が

八百年の太平を圖たり宋の武帝
南燕の慕容紹叔討まし一討今日徒止
し一當るとして抑留する者有る一我
れは破れし一といひて一軍を止め大に
勝利を惜みさう重賢英雄の举动
元より常経をなされて経過は合ふと
その可謂極ぢう凡ふを以て洋といひ
らぬ庸とい凡人 是をさうて天文陰陽
司より是らんと男よ書しられ常人は
能禁忌とも法といふ事一

関原諸子物見之事

河の精甚夜思田長飯より毛尾の水と
 云者と彼もよき事を言ふと所を
 一其方歌の趣人故何程と種うた
 こと 畏後河の生水取り 某物茶は
 二二万とぬり十と又け方より武切の
 者六十万なり明へると各活中本其方
 の種は何とぞ新お違場らるとは多
 生水取りと其の如く歌は拾二万の歌
 はいとも實は公我を持ち歌八二二万は
 正中百數と中上々多はし後連斜り
 所をよ有し慢流の形をわきまへ

生水押裁は腰を巻たつて一打の腰に
 と意く揚流り海淵へ還り其路
 彼者水は毛尾と云ふく巻の御
 文より毛尾と名余ととしは多
 茶の人へ思西の家の人道を知る事
 の世と感へし又山陽流と云ふら
 とし心子水を巻つて山に小姓を
 石され甚方た彼をよくと歌陣の山
 焚つて者篝火より信見り何と歌
 篝火よそは明き夜明あや押し
 あのかたつて流渡をそ其流小姓も

父祖の頼り、董、我、ぬ、む、と、作らるるは
山口に荒れ、相、日、首、城、取、り、つ、り、つ、一、備
世、に、日、叶、ふ、ふ、以、と、後、合、せ、り、天統又唯、
天統
信、ま、さ、と、軍、中、一、洞、山、一、座、座、の、山
々、と、云、云、我、改、め、山、山、座、座、座、と、定、め、合、号、ハ
片、の、角、の、角、丸、紙、を、折、入、と、津、入、ハ、口、弱
阿、の、新、く、口、馬、津、を、取、り、と、口、津、と、を、取、
る、ふ、口、津、取、元、は、長、久、子、合、戦、の、少、將、信
あり、其、時、赤、次、の、大、軍、を、追、殺、一、と、と
信、ま、さ、と、軍、中、一、洞、山、一、座、座、の、山
々、と、云、云、我、改、め、山、山、座、座、座、と、定、め、合、号、ハ
片、の、角、の、角、丸、紙、を、折、入、と、津、入、ハ、口、弱

乃、少、以、中、と、く、山、馬、津、有、る、と、と、天統時、時
山口に荒れ、相、日、首、城、取、り、つ、り、つ、一、備
世、に、日、叶、ふ、ふ、以、と、後、合、せ、り、天統又唯、
天統
信、ま、さ、と、軍、中、一、洞、山、一、座、座、の、山
々、と、云、云、我、改、め、山、山、座、座、座、と、定、め、合、号、ハ
片、の、角、の、角、丸、紙、を、折、入、と、津、入、ハ、口、弱
阿、の、新、く、口、馬、津、を、取、り、と、口、津、と、を、取、
る、ふ、口、津、取、元、は、長、久、子、合、戦、の、少、將、信
あり、其、時、赤、次、の、大、軍、を、追、殺、一、と、と
信、ま、さ、と、軍、中、一、洞、山、一、座、座、の、山
々、と、云、云、我、改、め、山、山、座、座、座、と、定、め、合、号、ハ
片、の、角、の、角、丸、紙、を、折、入、と、津、入、ハ、口、弱

一 拍子へいふはと罵り一六款方にも
をとや少く其役物云て中々燈名を
名あり双立の池をさう新く法外は費
は井も健心も少海も専ら一六款方これ
類の形勢我等百費は井も端端の一六の
人枚は山へ川をさし備場の人熱心も
あつた上へいふはさき西波年へ若年の時
端内通の便をさす我なり一六拍ハ我
より第一人枚を川場へまは付河川場
一六拍と罵り一六法外なり一六
先頭と罵り一六上志未は夜種を付勢の

中より何と云ふは夜は居るやと一六
有一六法外なり端端の海を味とく
黨を重く拍り陣をいふは中ハ味とくは
たのみるは是れ有る者なりは新ハ一六
いふは一六言の上りハ四う好つてこれ一六
あつと好う付法外は味とくは一六
さき山石見と改名せしと云

関原四陣備前先主合戦之事

此日は孝長五年九月十日不破関原東西
の備主敵方の法將ハ関東留の旗の事を
いふ関原の関原川中流に中流中流云

秀家は熱大將の事也是は石原常の
繫頭より向い伊吹山城背よりして山の
尾崎より陣を張りて支る南より連く
戸田武將も因内紀中條原路より河尻忠勝
布施宗元將も玉置山平治船谷内信
毛利豊前も赤坂山城も池田作樂も木村
伊勢も南條中務も補佐石豊前も太田
飛騨も畠山職方も其外小勢の輩も大
軍以山中陣の下より連く備する左の
方は小西將も少く川口より山田將もを
河原も入道同又八郎同中務補織田

長久保同之軍大坂黄母衣元は伊後
丹後も川連も次は大坂弓抄地は時
備我主居松尾山よりは合者中納言其繫
より朽木河内も小川右衛門同左馬助昭坂
中務も補佐佐木も赤松之軍是よりつき
富大谷刑部も補同大寺木下山城も赤松山
と川口一隊も備する石田原部も補富平
之捨八女今更の謀るとして小園村天満山
より一隊を定め懸より向い陣をとす其
先手嶋九迫も子新吉同十次部大場吉成
花多川平將も同十部也大山信孝も新

兵庫 赤丸之患 蒲生備中 曰大塚 曰大塚
柵前之陣 列之 設け 小池村より外に 柵を
二重に張り 各其内小弓鉄炮を操り 六千
余人あり 備中 南宮山 栗原山より 毛利
軍相吉川元入 宍戸備前 長米大藏 大備
才 伊賀守 長尾親部 宮内少輔 瑞徳 傳信 佐治
勝茂 中備 西軍 越々 拾二万八千 宮内
とも 少一 東軍 八口 先 福徳 伊豆
曰 刑部少輔 正之 八苗年 拾五万 甚 隆一
川 備中 井伊之部 少輔 是れ 時 忠告 領土を
傳へ 命を 不被 の 因 八 備中 後 二 河々

山中の道 備中 之 切 備中 福徳
右の方 少一 連々 馬田 甲斐 細川 越中
曰 無之 部 曰 無之 部 加 藤 在 馬 助 少 備 中
向 中 備 中 備 中 之 備 中 又 井 伊 備 中 備 中 備 中
備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中
小 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中
少 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中
有 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中
丹 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中
是 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中
伊 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中 備 中

尚井 伊勢を意馬物蜂園が長門
魚鱗の備へ 如多中務藤内内記ハ先澤
口徳本の官に在る 駒のん 京城板元と
伊吹川 伊の備より 東澤の備に成記ハ味取して法
有る心算の備に成記ハ味取して法
有る心算の備に成記ハ味取して法
家次 其次ハ白旗七本 土著業 廟の口馬
多次ハ一 弓掛焼の物に長柄より
沖 一 長 黒糸威の口徳園 桑の口徳南澤
口徳ハ備の口徳竹の口徳法 口徳の創せ
と 口徳ハ一 口徳ハ一 口徳ハ一 口徳ハ一
河原毛の口徳法 口徳ハ一 口徳ハ一 口徳ハ一

如多中務藤内内記ハ先澤
口徳本の官に在る 駒のん 京城板元と
伊吹川 伊の備より 東澤の備に成記ハ味取して法
有る心算の備に成記ハ味取して法
有る心算の備に成記ハ味取して法
家次 其次ハ白旗七本 土著業 廟の口馬
多次ハ一 弓掛焼の物に長柄より
沖 一 長 黒糸威の口徳園 桑の口徳南澤
口徳ハ備の口徳竹の口徳法 口徳の創せ
と 口徳ハ一 口徳ハ一 口徳ハ一 口徳ハ一
河原毛の口徳法 口徳ハ一 口徳ハ一 口徳ハ一

了らうて巴備へを西の宮へ十五町も進み
以後巴備平八丈う九町程も進先日進め
らるる南宮山へ備置る毛刺宰相已の内を
して人質をさうく取らせたまふも尚此の
是へさきより此のくく押勢を合せらるる是
其旗下より属する長谷村神長長米安富
等石田の後心の若城もこのくく押勢八池田
之屋へ備置る系系山内備置る者馬場中
同吉藪以全表法平同吉藪以全表法平
中村吉藪以全表法平同吉藪以全表法平
右多志横井伊藏又大垣城の押うは

西尾豊隆も山中立居る津佐右系之也平
丹波もさう又堀尾伝膳もは岡山山内津
以留も合せらるる刻く井伊直政八萬
忠吉相良一萬八千八人とてお前う相良
を討ひ先もさうく已は福清の備置を押し
らんとは福清の備置不可思也後馬場
飛りて輪港を横へ今日の先も八町の交
の分りては城も知誰へ城もは軍法を
破る先もへおらまはるとさうくは馬場
直政さうく我八井伊直政
内府八城を豊う大馬場も備うさうく

用く押をくへと云ふたがゆくゆくと云ふ
口人取を及けりて預さるる心也といふ
少くはゆを有へしと云ふも或もむこ
しと云人取を及家元本僕右京に能り知
せよと云合共乃は忠告備臣と云一の
馬と世評をくゆく欲陣進くをり
善く定りしと云ふ世軍令のゆくは徳本
より螺乃言一より出さるる合共一と
兼軍録波と云くも二云福清の奏
昨夜より宇多の事一切をらんと家元
福清丹波小園石見長尾真人あふ人など

巻一

備中

天皇元元正和元年夜より石田備中
切せらるる事也此の備中は宇多の
足元朝一巻有るるを福清の備中と云ふ備中は宇多の
此の備中家元海に清くそよと云ふ備中は元元正和元年
より備中朝一巻有るるを福清の備中と云ふ備中は宇多の
石田を及せし事也此の備中は元元正和元年より備中朝一巻
有るるを福清の備中と云ふ備中は宇多の

内府公の口徳はくはくはと云はるる
均く井伊一先と云ふては何の國
有人と云りて其徳馬は少くはくはくは
備の中城の家より宇多の備中へ徳馳を
放つて家元右も回く馳回くは徳の
難波の事を少くはくはくはくは
名馬上りて其徳を少くはくはくは

わがあきは一の子二の女の妾例も甘く
一回は叶て寤くをう言夢の先子唯石
掃部 因丹後徳系少房二の平ハ長松前
陣井兵十郎 ありは東丹城紀伊佐野
力助浦上備中赤松と一ツの福徳翁を
思くと川舟く唯石の子より一回は秋地を
つらつらう言夢の御大軍 兵隊より津を
あつて寤て出る福徳翁もあつたりも
己より牧之せんといへるは正判馬と唐
比良も奴系を及一ノ首を剣よ面
付新もく死なむとわがあきは

家元大馬より下り之持地を横たへ右
白頭見若安らと方をうけ志んて
摺浦の安よと名も討く
一あり有る御前更は知らぬ正判ハ眼茶
一ありおの勇士三十三人討く
大は怒りん若安と区也くわがあきは
うちを中納言も唯石をおもは先子と
敵へをきくとわがあきは二の子の
軍兵下りく寤くは福徳翁
山道の旗とうちを大敵の九代旗と
秋風よりおを東西の翻籠

入交り、嶺北以石田部、補、先子、
是田甲斐と先子、田中三郎、補
回民部、少補、金喪、法、田中、少補、細川
頼中、田中、少補、頼中、其、所、
竹中、丹波、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
一、留、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
清、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
回、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
鐵、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
大、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
高、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、

一回、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
是、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
傳、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
映、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
先、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
を、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
放、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
思、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
藤、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、
合、田中、頼中、生、約、漢、及、其、所、

寓くをり田中生的竹中一戸川是田
爲と一二町をり是追言ると是知り者馬
舌着以峰頂望長門も青沢志摩も横合
りり寓くをり石田の是又感返され
一二町川退きをり唐き吾地、原も双方
共万の勝。歎味方入秋も生の歸故の夢
を載矢妙山の声山川を震動しし
上は梵天也も振ひりは堅牢地味も
碧流ふつと影一花も入秋きての大合戦
家への旗馬中へ伴吹おろし。次立て
射落さきても抜帳なく継討して也

故言、我増は子は親を救ふ事、叶は
神あり、是よとせられ、汗馬馳逐ひ白刃の
あり、言波隆羅の同輩も是り、是
是しと思はせ、歎を切崩せ、歎も當
らる、余の死傷故、らる、其中、は双方
い、は、我を文へさる、是、最堂、甥の
新太郎、良勝、甲首を垣、は、高虎、悦
大、方、好、は、山、馬、首、斬、は、是、は、味、方、替、の
初首を、し、し、し、山、林、更、り、り、少、橋、本、一、は、
石、所、作、是、も、貞、政、石、田、の、物、見、服、部、新、助、の、
首、を、取、是、少、橋、本、一、番、首、と、し、福、崎、の、

いふは海を去る一帯は首を丸ねは
是れ我法の一帯首と定ぬらむと云
天元聖紀卷五
大成記

忠孝親の言名多父を勇敵と事

是より先井伊忠政の忠孝親を伴ひ
女強きと云ふも福清の船と云は
款陣の船と云ふも福清の船と云は
吉忠の船と云ふも福清の船と云は
福清の先も守忠多先も映地
迫人の船と云ふも福清の船と云は
城の福清の船と云ふも福清の船と云は

人救忠孝親の只人救も進く池わく
うけし加急上馬船首井伊忠政も一回小
城く福清の先も討く福清の先も
福清の先も討く福清の先も
大勢も年も別勇之助の考有是は
川返一帯後より押破んと云ふも
忠政純倫の英雄忠孝親の只首初陣
是れ我法と云ふと志を磨く福清の先も
福清の先も討く福清の先も
別極の福清の先も討く福清の先も
是れ我法と云ふと志を磨く福清の先も

松浦 孫

二部三束と云侍寇亮の別の者是人
二寸の旁城抜馬どと云く是後左右
と切くは言叶峰先の白く者切敷され
と云といふ事れ味方是は群島一
神白く是は忠吉相伝初と云く一
一馬馳前せう二尺もくもの右刀裁
以て松浦の志甲陣人と云はる松浦
右刀赤の子なを向ははまらりと信
流して切返は忠吉相傳も無陸傳も
させぬハ二の右刀を赤りてお打
まらりと文とむ松浦の右刀は忠吉相傳の

弓の杖腕の中まともは侍の杖の忠吉相傳
の赤り右刀は松浦の内兜は赤り右の
眼く切は侍忠吉相傳の遠きは馬城
池並へむともは侍の赤り馬の赤り
下へと返は松浦の赤りの大力侍の忠吉
相傳は今平拾九重傳の初陣侍の
相傳又力屋曾傳の赤り侍の赤り
ては別区一剣返は赤り押へ二三百
將の命くとも是を物味方もれ一
本陣侍の軍使ハ小栗又一思の赤り
有らん其傍は侍の杖と振く杖

叶林と名付くは吾人でも故に其角一
々々其間も忠告報は松浦の上へ予將
々々首我捨ん上々々々松浦ハ下より
剣返さんと云々如と野呂の道呂活津丸乗
成候ははか後馬就之前々々飛下り松浦の道
活津丸と云々
と云々取たり々々活津丸は是と云々左勢
として忠告報は討くを野呂の道呂
阿知角助活津丸活津丸乗押通て一人
當千の勇我捨ん苦我も是古野呂の
道呂の道々々其の道は一人龍云四人
其老くアハハ々々其野井伊三郎が補は

も野と云々して實に野井伊三郎の
本僕右系活津丸乗千の者を指揮して
十文字に當り巴の字のけ之侍本僕々
可属として小幡勳之系宗憲首と取照立
爲中世此六流は抑々力我も向山外記
と始討死する者も数多あり松若堂始々
重正も井伊の属一自分之言を以
忠告報は討の野呂の道は是々大者
成く之流小幡之部活津丸も是々
池野々々已の馬と云々と此回く家武者
六三系も叶可く池野の馬より飛下り

活力を向ひ其元は行歩不自由也其元
馬よを此もとて月叶へくは古坂よ我馬
と奉ふへくは武蔵馬とてより相伝
其馬よ不さきへくは武蔵海をあるハ流
て迫交敵と討九々叶軍一終く増
忠吉頭召傳也よ免光の刀武蔵小田
眼元我揚て其意と感一傳くると
古多中勢痛忠格也

神若くは揚りさき之思とてく九寸
腕は強足の鎌日増り女男内記忠朝と
馬と並へくは古多中勢痛忠格也

てくは古多中勢痛忠格也
をく敵も天晴の大勝とてんをくは馬法の
力士とも我討九々叶を中よ古多
とすれとも古今交敵の古多忠格馬は
活力の強也之は免光の系尻切り
一報てては廻教一報てては廻教
徳と持くは古多中勢痛忠格也
てくは古多中勢痛忠格也
古多中勢痛忠格也
馬の右腹よ中よ不流石の名馬も古多
編めて倒せんとて其の候云握令平古多

馳せ其馬馬を死せしむり忠勝を其馬に
乗らせ我々の歩の速よりて改戦の
内紀忘然、當年拾九才是又之敵の大力
志先又馬を馳せ許馬部者二人、弓矢を以
て網切、由り、吾刀切、鞍の首痛、
押河て、押せし、元、抽、勇、旅、ハ
其属、兵、山、田、水、永、田、覚、察、如、意、忠、誓、の、忠
之人、右、方、ら、ん、若、我、一、中、中、も、吾、京
新、貼、長、時、新、部、吾、山、三、部、ホ、ハ、吾、名、人
兼、山、上、部、の、一、也、忠、勝、の、も、属、一、
戦、切、あり、二條信隆
兼、山、上、部

流石に改戦甘合吾黄門裏切之事

福崎左衛門守正ハ今日一番の先手也、其、
人、故、精、我、も、み、力、我、に、て、改、戦、一、也、
五、一、は、信、一、守、正、ハ、大、軍、の、事、也、
福崎智也、と、も、す、ま、は、信、一、守、正、
の、中、絶、也、一、川、退、く、守、正、多、秀、家、傳、
之、事、一、是、也、も、信、一、守、正、
福崎正則、の、嫡、子、也、之、も、父、と、同、く、馬、を、
大、喜、志、に、刑、部、大、輔、家、に、つ、き、た、也、
歎、い、流、石、に、改、戦、一、也、
一、也、一、也、一、也、一、也、一、也、一、也、

毛利二弟長宗安田も亦一回
内府へ徳ある様かよう密々そそぐは
天下の事定らぬと楊笠一天佑山一
お家の根柢をこし先づ身は陣取の
丸山をとり鯨波を揚ぐ柵除くは味方
勝色なりそそをぬしおんまは共謀
をこして清隆を陣取又八郎中勢大輔
小西隆勝を共外石原味と扣一徳勢
三百をくは一回におろしりり密を
田中生駒竹中戸川之軍勢一た隔り
昔もよひ友徳左徳の教諭を加重に爲す

細川頼朝も黒田甲斐を横合より討く
そそ頼朝も貞方志先をくおてそそ
伊丹三摩次を親入遠景頼石田の物取
安宅頼朝と徳を合己よ討くんと
一おそ頼朝も黒田之は横合より池原
安宅を密倒し伊丹をくそそ共首取れ
よそといは伊丹は安宅の前をくんと
より一は源也は共密倒死は黒田甲斐
長政をくそそ石田は深坂乃浪お人
御も共勇氣頼朝の是恨は是ハ是非
三成を討めんとそそ夜より密免の者

拾之人撰書一馬ノ側と少も難言
石田ノ備へ月身志先つけく疎く備へハ
く撰く一魚一きく後後又米益田
與物獲立て賜中も能備く谷言名を
是の願やうも田中生物も取て返一
備者月石田の兵終に破るも冊中(此也
う)大谷刑部少輔其子大守英日平塚
同備ち予田武家ち中も先んて破るめて
益装佐備も織田有米其子河内守信四
長(中)中と頼小益装玄蕃と平家と
備我合也者色とも備員と改るるよ

及ハ以難大腫腫理危先を著り此依せし
今日ハ漢腫を系支るも厚一南宮の
押し備るるも毛利ハ已に降し余の
もく安も一裁も有る愛の某書ハ
一備せし一ては十難き分ふもハ紅筆
時をそる先も加りうも首鹿も備ちる
わしハ一幸長中てむも物ハ備備る
身ハ余も備一と云前大時ハ大に腹ハ
馬を早ゆく福清と字多と合戦華中
一池月修理も備を合をたす大時ハ
家一米村種重も益多く其歌を切ん

とは故馬より先く、りり米村とあり
 一多世継人とあり、背く、修理馬とあり
 きて一魂実時米村とあり、其首を討九
 修理共首あり、山平津よる所
 神若以流るる、道に、貴坊たり、もて
 先、月、之、く、山、止、り、り
 早、空、と、曰、く、中、を、り、り、け、歌、後、り
 少、六、字、多、家、士、言、知、七、部、集、と、云、者
 一、と、と、天元、實記、是、は、川、縁、と、古、田、藏、部、心
 栲子内匠舟越太郎夢の回源六佐久間
 久夢の回源六力哉、山穂本より小坂

安孫子^{アソコ}三郎稻垣市屋の巻松又男部
 西之尾菟^{アソコ}坪内義太郎其子越三郎二男
 加三郎三男他は其の四男也三郎言、言者
 一、村、多、多、河、村、物、也、八、討、死、以、其、我
 今朝辰村より巳年の村より、八、言、と、も
 猶故未分らず、中、と、も、也、也、八、山、先、の、の
 勢、也、之、り、り、山、穂、本、近、色、め、き、之、事
 殿あり、金吾中納言秀秋、夢、く、肉、也、の
 事、切、り、甚、也、は、属、也、一、昭、坂、折、木、山、川
 赤、屋、也、也、古、く、心、味、方、の、肉、也、一、裏、切
 也、人、と、あ、頂、を、交、一、時、長、と、切、り、侍、を

そり平塚園遊。其後を索——大谷
去澄へ告る去澄も驚く令者の事皮
心元なく思ひ——板坂朽木山川赤府亦
関東へ内包の事は羨もむ知れ神皮
其子大塚次男亦下出遊すと傳へ松尾の
方有る傳へ其身も松尾山より向ひ令吾
備強き之ハ忽ち打破らんと撞へきり
以平陣もも松尾山の法勢殆ど切く
名も裏切の指子も切く
神君も少不慮と思ふも知心の近く回復
せ——久保房孫を其先子の指子一見

——下三條り統率中継之為りの約と
其裏被さる換子も足へり——下三條ハ
神君固石以て少少思ふ換——俣也
沙らさ——若秀秋裏切裏裏もく輕
切らば毛利秀元も内包遠愛者も
知へくは頻りに指を嚙せらる是
神君果年より事危急も疎せり
時は頻りに指を嚙せり少少解たり
付付も頻りに指を嚙せり少少疎なれば
先子へ馳りて松尾山へさる秋地我
折る換子を足へり——下三條

芦毛の山馬と云ふ久保晴取の彼馬
一打歩く山馬に馳れきり流絶の以布絶
流三束へ仙を併へ布絶界り属吏と
川連松尾山の禁よ向ひ流絶とつゝ一打
甚業より布絶と流絶の流絶は山馬の流絶十幾
打すともなり又流絶の流絶は山馬の流絶なりといひ
黒田長政もよく秀秋内色の西成打りもハ
秀秋の陣中へ大久保格の物と何れを
付付松尾の平是石見の側へ寄り平摺と
むすともへ今合戦も前中なり
當り及未衰切の流子も是れ以布絶一
甲斐さとの流絶と遠く流絶なりといふや

若れもいんよは弓矢ハ流絶も照流なり
其流絶遠く一打と刀の柄よ流絶を
石見ハ少くも流絶なり我亦は流絶を合
流絶を何れも我亦は流絶なりといふ
爰彼下り合戦を同流絶也其流守り居る
可く布絶の流子の流絶をささる流絶
ゆゑと拍く流絶の側へ流絶なり一打流
の者を一首よ拍く今日子細有り流絶
より裏切流絶の流絶は流絶なり此物流
流絶の流絶ハ流絶の流絶ハ流絶なり
流絶の流絶ハ流絶の流絶ハ流絶なり

取り置て先子と曰く石見の福系は後
相成して平甚稀系ありしは螺貝と
吹之徳と主連氏中にも先子も備者
物以相成之馬の備へ彼彼村に有る池
石見の山を傳へしは之馬愕然として
大に驚く今東西の合戦勝負の區くして
大切の時甚哀切なりしとて人々
秀秋にの天下へ對し不忠不義世への
船免もより傳へぬありは何と思ふ
事よりより我ハ其れは少き
よして一人たりしは岡東留と合戦

討死を遂げしといは有る甚先子
少き後討死原は我々の傳書に及
主難し上の者不義の只今半海と
連をも之を言ひて岡東へ入る者
上は只今之を愛者へきよは之は是れ
ウリ知は彼れをいふは之馬も必死
として禁へ人救をおろし者も之も子
者と川邊の始終も之を以て居たり
居たりしは二戦散し之後之馬は終
一々一々一々一々一々一々一々一々

大谷平塚戸田討死 西軍敗走之事

今吾中納言秀秋ハ八千人ノ人数を二小
分チ五千を大谷ノ備三千を徳本陣ノ
松尾山を討テト左ノ先子平忠房
福永依備法士を以テ先子六百挺ノ
惣勢を以テ絶彼を以テ大谷陣ノ打
死ス大谷ノ先子も備も亦下山陣を以テ
見テ々々ハ二千人今者ハ二千人書切
とて人々近戦を交ヘ者も故を捨て大谷
大谷と云々秀秋勢を追拂へんと備我
と云々戸田武英々々平塚岡崎ハ先子

より戸田細川と合戦ナリト是也
此体も亦々川原一備と云々大谷
刑部お備今ノ如きハ練ノ二抽を以テ
白旗を標を以テ法士一隊を以テ米の
佩楯を米ノ頼由一甲内ハ若せん
若せん此結ノ度向ノ頼由ハも頼由ノ
下も々々級成結ハ四方取ノ轆一
方々々山内ノ士有ハ望せたり 大谷も元ノ虎
若鳥也
惣六百人を以テ之 諸軍我他を討を
一ノ故兵也ハ山内と云々惣勢ハ皆徒を
不義之道ハ秀秋吾然皆精ハ徹ハ秀秋

首をうんばりて、吾死をもも瞑目して及ぶべし
ゆふり命抛く彼敵を退治す一秀秋と
討果しつゝと吾身轡を束縛し先子と
而も此平塚岡崎を為度十文字の徳成
歩振く是後、敵を束縛せ柳子奮迅の
怒を以て、つゝり城拂く歩回す戸田武房を
重役ハ馬より徳を重傷し、是ハ太刀城
振く數十人と難き戸田の奴僕と人
取落し、徳を拾くおせば、武房も其
志我孫兵一抜き、古刀我奴僕も抜く
大谷、後兵十も勇命と抛く奮我も是は

今吾、誓ハ敵、よ実之も近嶺、平塚
石見稻葉佐渡ハ大吾志を拂く小敵ハ
堅ハ大敵ハ槍と之事、つゝ大谷たとし、鬼塚
なりとも、計去留も、此ハ此の討有ん、何程
乃事、つゝつゝや古所討く軍切之、よ山も
是ら、ゆ山勢ハ敵、長は徳せ、退散せと
少知も、よ、而、よ、さ、さ、田中、勸、兵、つ、布、田
新、平、城、始、踏、留、く、討、死、也、と、の、共、九、人
剣、と、衆、者、五、十、金、ハ、以、程、中、つ、つ、秀、秋、の
陣、中、軍、使、奥、平、首、首、長、南、島、の、兵、平、塚
戸、田、の、死、物、相、と、此、つ、つ、松、尾、山、の、謀、也、

其の心をよくよく大に怒り形を
池へ首を打ち家去り持せし陣
より其の八尚も打ちし。池へ比類なき
御して討死す。是ハ東平兵衛佐思の
神君其の死を惜しむ。子も亦ハ
母の来北之言をとりし。とこそ最業佐思の
御田有東父子陣田長門の中は最業大岩、
長一、くわららも敷きせ。松尾中より
哀切の金吾留押出しとよくあり返り
大岩、左備へ討てを。船坂中誓の浦小川
古伝の朽木河内。東平之志も返忠の時

至りしと。同く菟川を清。大岩、
留り右の方へ打てを。秀秋の先も
是ハ威を借く大軍一。引返り大岩、
徳本因る。押を大岩も平坂を四も
大岩少勢の可き。是ハ之方の敷り
押えらる。隊毎も人。是ハ之方の敷り
古隆平生士を屯。て我我強く。石居
合を多。女父子兄弟の如く親
は是ハ因る。感。是ハ家。皆。力
北河原宗幸の池原希。又。一。始。三
十。人。孫。百。人。一。是。も。返。り。同。一。地。

討死に平地園場を以て去降す事あり
さきとも思ひし程もそ果てて秀秋の
衰切は道中を以て我々の運命今日も決り
しるしと涙を流すは去るも我々の秀秋を
討て捨れし一大事を宣く死に付然望し
死せり秀秋又思ひ死せし事なきと
月ハ之の如く佛ハ雨の如く澄き雲一
三月のたふ有柳ハ泣く事哀切也姑
有る面とて鳴呼息なり我之感
事頭取金ノ交り捨れ破れ我
屋雖く天の物也 内府を歎く

思ふ事々此大空ととも滅せし事あり
とは始り思ひ設け事なき人々後悔
する事は誰れ元より盲目も滅せし事あり
しるしと涙を流すは去るも我々の秀秋を
討て捨れし一大事を宣く死に付然望し
死せり秀秋又思ひ死せし事なきと
月ハ之の如く佛ハ雨の如く澄き雲一
三月のたふ有柳ハ泣く事哀切也姑
有る面とて鳴呼息なり我之感
事頭取金ノ交り捨れ破れ我
屋雖く天の物也 内府を歎く

平城の戦跡を姑く馬を休むる如秀秋、
近江横田小宮能引と云々此多う一絶實ハ
平城も十文字絶と云々其絶を打首絶と
横田或歌絶と云々其首取大谷の方へ打せ
送原と云々矢之の筆取也一首の歌
と云々書源也。

君と先捨る命は枉し。

終りと隔ぬ浮世と思つた。

此首は某月某討死と云々其古の古歌と
云々其日頃の契約を失ひ其某、此首
討死と云々其某、其早覚悟せと云

むりくと使者、口之哉、合さる大首
其使ふ者、同州武勇といひ詠歌と
いひ河をら武士らへ其某、最朝悟ても尚
あまらけり、我身も思極めと云々

契河もは六の甚く過ぐと云々

和も先たつ者といふと云々

と打吟、其身暇在へてハ甥の傍祐云々
書書と送たり平家討平叛を感吟
河討死と云々其定免と云々其山川七仍手
家士櫻井喜重と云々其平城殿と云々
僻目、いさ一絶といひ其為度、之と云々

「中へゆく我こそ因幡さそ女志乃者
けり物有せよ」と云むうう十文字の巻を
揚ぐたまふ巻と志乃、よ折んとせり、
たまふ巻と文とつゝつとつと平塚と突倒し
為度倒すれり其巻を投出、是ハ海、
室室とせよと云れり討まききり為度、
子のたまふ巻も戸田武蔵ささるの肉紀も
回く力戦して討死し戸田六ヶ村を名れ
く石田の備へ馳れり金吾の裏切して
軍八甲坂を平塚も討死し大吾も自害
せりせんと云ふ三蔵ささる何ゆへ」と

世の宿業満は是れ討死し治身之保業ハ
今こそ昔朝の一戦せんと思ふ甚なもそ
心持せりといはれ戸田両り娘と作り
其備一も我以て有業父子津田も勢不
討くそもは却も但志安被りぬたれ
巻討まきたり時西長門を佐成は戸田我
國を討てそり一平圓の馬を刀筋に
驚くくけり其師、織田河内を長者
馳馬り入る巻と合巻姑く室城一巻
戸田極勇こといとも殺割の力戦り
力付りたりくと云ふる可と長者

流去々々田々焼の如き一と實一と田
に流倒る知事存道長山崎源次郎之
首我と信戸田の部首菅見今屋の之の
迹从傳一と也孝討くをさと長孝の
部首久田を去去今屋我家倒れ
け頃迄も大谷吉隆端を居させ時長哉斗り
居させし一前首湯沢右助敷乃首提り
系物ノ首之流儀之流一合我もさや
是近し平塚屋戸田屋も討死しといひ
吉隆之々々時刻終る報之りも之を
残念せり腹切一我面傳系物ノ為

換一人は人々事我聖は是て十世
也沙う小角一と又橋う黄金堂也
百一討死させ一追留古々女未だ討死
せんも之を討つ是我路目と一訂方一也
お物一介増せしと一押机控後十文字
格切も一及お物甚役首少前一と首前
二浦吉孝又相切も也一追留の田中一保
押安堂う吉隆今屋一居落二と吉孝又も甚
少々腹切切死五物ハ甚々居て又馬を
馳切々首堂の備一と三三三ノ節々入り

魚——秀秋のこゝ水江の毛利黄門輝元を
盟約を違背して今日お馬せし南宮山
へ——備前守軍相秀元も良心とて今日
軍を逆めは天下傾覆の時長幼兼
せり早に討死して右左衛門四郎と雖も
へ——馬川吉とて今世も家光州右掃部
全量燈の油を扱く口懐は去事とて
秀元二軍の命とて今日大將軍とて
備——よせは卒忽の口奉動ハ勿論也
中とて大光の忠義を捨てて故
陣系せとて今日若山を伴ちとて

豊臣家の天下恢復の事思はれ
へ——秀頼公は切也は一先此本を
させとて諫——は秀家實もとて
思はれとて人に別件吹山の東祖徳公とて
女驍をもとて今日掃部も
戰場を切抜とて主人秀家の端
幕の早もとて今日早秀家の
さしは掃部治方とて今日掃部と
さして急ぐ日東方口本陣も
神君の大功も今日早軍は勝たると
いふは今日口本陣も今日口本陣

此人之足益勝之系一縱横之通之れ、
西軍は皆碎易し〜教取守 石田は
鳴尾通を拓く河も城もよく南宮山の
毛利智長と長曾我部安直も計合戦を
促し居り〜〜我もさぬハ何事を以
云甲斐守も老老我味方は活〜
不運さ〜といハはた通さ〜と致方は
有〜と先〜〜一〜吉平と
創〜踏塔ハ黒田加藤田中 合表ホ、
通〜勢も向ハ大目と夜を走ハ黒田
加藤、勢も是より切〜〜ハ〜所ハ

後輩亦有柴父子とも大谷を討〜通〜
模合より七八百連つ返〜川野入程〜
石田の家ハ蒲生大器回大旗山十部と
〜〜〜逆立百之拾人 槍と並〜討死〜と
〜〜石田三厥小西外長貞房と並〜戦ハ
勝劣〜東と西と通〜〜石田小西〜類
益川を〜〜通〜〜討死〜と
石田、源將之助持重又 大山民部也其ハ
大寺居勤十部も討死〜、徳本〜、津
海干〜他小栗又一ホ宮〜、名臣
活た通〜嫡子新吉佐徳ハ、通〜大力の

少へ有る大將と雖も思ひ味方の
敗軍哉余もよく最量備へ突り
最量と書良政と雖も伏し最量と首を
控るし之より如くと書最量思小姓山平平部
之より新吾我二刀さして首と九最量
首より首を備へし最量平部八回く
持札をとり最量と知りて居きし
けしめ若たは皆討ししは備中今ハ
芝道切りと大奇強く敵兵数多難御
馬より難と云しし今も是れは居き

所へ織田有樂と来りしは君は知ろし
めさしや其は備中兵御の方にて横山
表に建を原流川の城と云ふ者
云有樂ゆきしは御人なり幸の事
なりは我の従ひ其の事
内府と云ふは此令せしは御といは
備中と云ふは此物に君は正しく織田の
御子なりおとと云ふは人物の
御見分せし事なり備中と云ふは義と
拾生我命者と思ふなりと云ふは
有樂と右の殿と切有樂ハ大に驚き

左の方へは馬を有樂部へ送あり
備中と頼んとく 沢井久義し名あり
そそ備中 甚だ切倒れ沢井の家人
一太刀討く川越 一 甚者と絶えて首を
丸くするんとせり 姓を大器とくせ備中
一 切を備中 教く不の原は皆倒
るるそ有樂部 教く不の原 一 云々
甚者とれ志甚多川平教ありそ備中倒れ
り候知しとをせりよりそ時左邊も乱軍
の中へとく討てしとや 誰知る者れ 天光
引候治者や也 藤三のちん被焼くあつた死候るに石河内
系守義人右衛門 小千代死候り候り也 死入候死候死

父子詳興福の持宝院に流産候に伝道無^り交 左邊二子

十次郎ハ兄新去と聞く討死せり之成。勢
勢は放りて右側左側を教候をれ
之成も論方ぬく候少山をささ邊江邊を
為りぬ難小西掃部が引長も勢の敗走
せんとす大日怒り使役を先いし
今の中は二田守 縁川の中 是燈石と
一平一集直監合とてそく首先を擁へ
勢地をたす我々の旗本を以て害を
爲しとて知られ出るはけりおとる備中
縁川の中 是は我東軍ハ小西の跡石田

勢の尽る友親一て外すと思ひ大勢
一方より此をまじ小西の勢は切也
其の場下も備を急ぎ長は詰り
崩れをまじは長大は怒り制を急ぐ
法勢耳より少入は脱れして逃走す
仍も制を急ぎ事能はれば山首より
崩れあり天候晴候兵隊入道我は
惟新も教くは我は急ぎ之は僅千餘
討たす事一々石西小西の勢は敗走す
と思くは此時味方敗走す方より逃
れんとす是は且西としは思くはより

貴方も向小敵と歩破く思ふは志は
如何一 中智左衛門豊久へも引と告ぐ
豊久は解き難しと云ふ事能は
人救は只今我は秋勢と合戦す事ハ急
川揚雄 豊久は急ぎ討死す
其方より急ぐハ切極む事能は
云給其は馬を馳せ 我は秋の大軍と
火花を散 奮戦し平是石は福急
依はも急ぎ大將と見大勢より追は
討んとは豊久は今急進せりと馬より
慢ふ事大急ぎ我は謙右大將

大將家の後流活陣三庫の義弘に
運じて只今自害す人自らせり一は
此の後に三河と云ふからけと云はる
馬一丁一は勝控切り左方の先を口を合
馬より一は馬を引きて死せしと云ふ
八拾五人の隊あり一は一は一は討死
豊久の首を伐取秋の節に金原の先
と云ふ討死の三庫の八群の隊を破
押退く不と福清刑部大輔の是と云ふ討
とせし一は智也一は破らる其府の強本先隊
酒井高次も此の亂之東軍と討死

右の言より安を義弘も今月討死せんと
する悟して大敵の中へ馳入りんと其時を
入る家光阿多盛涼入道長盛親を
討め討死せしと云ふ一は某の津を把
り討死せし一は其の死しと云ふ一は退り
多ふり大智の中へ馳入り討死せしと
討死せり此の時義弘の討死多く討死
残兵今月三拾金原親を五百と云ふ
一は討死し不井伊直政の忠告朝臣と
討死し今月より馬を休め居たり

一、今幾法の後、為りて忠告雖は
逃れ、浦と馬を池に引込、是れ、
自勢二千を、是れ、志ん、て、遊を
幾法、に、は、早、是、の、地、理、を
尼、平、に、引、つ、て、折、敷、の、地、を、敢
て、を、指、田、源、義、一、平、と、い、ふ、の、敢、を、
決、地、を、敢、の、腕、の、中、り、馬、を、敢、の、源、の
甘、も、は、事、と、も、世、に、又、馬、を、敢、の、自、勢
と、し、か、し、遊、討、に、幾、法、二、男、又、七、部、を、始
後、兵、を、入、難、兵、三、拾、金、入、討、死、に、石、田、を、
鳴、陣、入、自、を、敢、入、口、持、た、す、の、様、に、

今、之、を、敢、つ、た、の、之、股、を、切、地、を、馬
駈、て、南、へ、馳、せ、り、井、伊、の、勢、に、主人、源、の
貞、之、を、退、く、と、な、す、人、の、跡、を、追、く、
川、邊、に、以、旗、を、懸、け、陣、を、討、留、ん、と
遊、を、敢、す、神、君、以、旗、を、一、つ、備、を、礼
さ、し、川、邊、に、懸、け、旗、を、追、討、へ、し、と、引、
つ、た、は、幾、法、に、殘、兵、を、引、纏、ひ、為、り、
宮、下、向、井、伊、を、定、次、を、時、陣、の
以、旗、を、一、つ、東、へ、引、つ、つ、小山、を、本、陣、
馳、上、り、伊、勢、圍、上、西、の、庄、城、を、さ、り、
家、人、も、定、次、の、陣、を、守、り、及、び、

上方の大御所一宮を城と云ふは
避座一宮は定次連中一宮は時中
少て詮方はく定次の人と因く改年
政の人數は加ふ事今只二陣は備
先刻より合戦せし只今姑く休むは
藩家元中坊花房秀祐時陣の藩
と見く是を述討せしといふ定次連方の
大御所は存人敷を避座といふ
中坊はは東宮元一系は地利は
足定一と福崎の備座より小幡と海
越へ時陣の兵と挑戦し一宮は六時不

とも切捲け一激七波多羅の山次(等)
所是たり又長束太義藤波家、石田
三成、先刻天満山より河原寺の合戦
の根相成りしと其後宰相秀元の
布陣は彼を以て只一宮といふ中
より只人數を南宮山より連座といふ
定次秀元刻といふ存座(其後中宮
は)古川藩人少しは藩兵種を
古きより秀元留詮方はく兵糧は
甚しと中宮の時刻を暇に其間藩
備一七束安由る其旨執紀亦勿く

吾川國東へ内通の事ハ察一たり
秀元も裏切もさうと勅をうけつて
山の上を去つて居るなり
秀元の人教を疑ふ志似して討利
と移し一書志を以て宰相の宣命出
し後々も彼へ書り彼是をうけり
関東上の方の軍勢敗績と有りぬ業
長束政家、即魯一人に討つた
と諫言す合戦の時今日の員は
の員ももぢい東軍ハ赤橋屋ハ
可く散れ

内府の側ハ人は五万あると云ふ
内府と付は只今といひ
政家此と申す一子の勢城にて馳書
しつゝ一書んてより出
安由も長束我部も皆を捕して
逃去り秀元は後々明日此所陣拂
と其用をす安國三郎
才子の傍首座を以て中々
愚信は長束と回道して思ふ
愚信秀元を以て思ふ

中へまゝに難ひと存りて只今立錫す
若や法師首創法の人とて其の覺悟
了らば中へ亦是は亦元も且感
且懐之趣物之 望十六日安由寺
百具一 備陣せんとも聞えり如
安由寺又何とも思ふ 然十五日夜中
竊に南宮山を海家 京都とて
免たり 傳今日款の首討九事 二万
五千二百七拾金銀 港業二万 口味方も討死
三千金といふとも大将分の者一人も
討死せり

神君の既銘せられたる誠也 今朝の道後
乃折くは其徳の上は何方とも明く魁
飛車り集るとるを 八幡宮神の魚と
思ひ中へ 城和泉の山勝軍
銘あり 又喜増の
身をもとる 任宗味吉例の 喜増の宗
ひひひひ 任宗味吉例の 喜増の宗
天皇神魚感魚とて如む ことき事
成へ 越へ 今日の日合戦辰の刻
始り其終り 八束の上利頃なり

天文
実記

按之——天元寧化の大逆内亂、
物語を以て國系の號は日本國々
東西に分ちて双方共方より大軍
國系より一軍の交集り辰の別頭
始り未の上別頭より辰の別頭
より合戦は日本代末の事として
法は未の八軍は是の法法攻めといふ
事もなく我傷を是より切箱一た
りして遺留せしむるも能く四方へ
敵を遣りきまはれ中へ拓く我を
是より事皆しはれといふは是を事切り

池——と興存又石田之威部道一形清也
はるはる世人の法法を是とも殊外とて
我も是の者として一十月万の事を
抱負しはる國系をわたりはる先と能
者も是と能くはる討死と遂に是者も
あり小西仍長八肥後ふも願ふ合衆
地室は不足なり——我切是の者
——はる大軍の似合はる是者も
はる——漢編六部を是の物語——是
——と記はる是月皆當時其下りて

同擊せしもの、況やまは寧事しし
 且つ一法にちがふよふ、安んずし一法に
 たり

法將出陣 糸湯 一書

国東の一戦、国東方、口利、逆、後、敗、之、
 一、多、色、は、油、看、は、口、利、以、て、將、現、と
 せ、一、條、を、控、の、境、と、一、つ、と、云、語、は、口、
 の、境、を、取、さ、る、左、右、は、個、別、な、る、以、澤、代、道、智
 の、大、小、岩、路、を、控、一、端、一、油、を、運、び、て、今、日
 の、大、口、を、控、一、さ、る、我、ら、は、口、も、下、さ、り、
 偏、る、各、邊、の、忠、勤、を、心、の、保、は、後、利、と

ぢ、う、ぬ、と、作、る、各、有、難、一、と、取、り、折、辱、他、と
 感、作、は、口、先、子、の、法、將、も、此、く、も、境、を、控、て
 一、言、級、より、一、中、中、津、も、さ、る、一、口、切、口、大、成
 を、智、統、一、南、の、戰、切、と、さ、へ、取、り、ま、る、志、田
 甲、斐、さ、長、政、を、元、人、の、中、より、一、邊、通、り、な、り、
 今、日、の、勝、利、全、昔、元、の、戰、切、一、と、一、言、は、
 彼、附、は、さ、る、一、視、は、口、利、馬、田、家、也、一、法、里、
 有、角、一、と、一、言、は、さ、る、一、裁、り、せ、り、
 是、代、南、之、度、の、川、也、一、と、一、言、は、さ、る、一、小、岩、
 と、場、は、さ、る、一、長、政、也、一、と、一、言、は、さ、る、一、油、我、
 備、せ、り、一、と、一、言、は、さ、る、一、法、將、也、一、と、一、言、は、さ、る、一、口、切、口、利、也、

の少綱を施さず福澤正則今日も多中替、
人報扱す。増く目を驚かし。いふ事。い
つと。若きは忠賜も先日の法將少綱
何より比類なき事。いふと。又折れり。
今、首の感、痛き事。五旬も。古のも有
色。いと存じ。思ひ弱故。もろく痛
切意なき。免じ。いふは。人。舌と語。人
其極。留さ。い風。さ。田中。郭。少綱
全。表。法。下。最。表。依。後。ち。有。馬。舌。舌。以。生。動
漢。依。も。峰。頂。其。を。の。ち。加。後。は。馬。他。も。此。事
。い。ま。り。其。感。切。と。い。ふ。も。月。野。曾。成

臣さくもきり。い。い。風。斜。あ。い。法。の。
清。九。道。と。い。い。い。学。廣。ま。い。我。切。者。後。の
山。少。法。の。り。本。多。内。紀。忠。朝。の。全。う。烈。く。働。て
を。力。も。の。り。廻。本。五。六。寸。鞘。の。納。り。の。子。い。い。は
横。は。折。り。く。中。筋。の。あ。筋。甚。方。言。名。仕。き。り。
か。と。い。ふ。事。を。を。ら。る。織。田。有。樂。は。其。子
河。内。も。回。道。い。津。田。を。つ。も。回。く。あ。り。た。り
有。樂。是。月。蒲。生。備。中。首。の。い。い。と。自。分。も。流
。い。い。入。河。内。防。老。体。は。不。似。今。の。も。病。致。さ。る
た。り。備。中。若。年。う。い。や。及。た。者。不。及。向。り
そ。首。の。い。い。筋。の。森。の。い。い。り。有。樂。也。

他は用也へきよ服従と道徳の及ぶ茶
にて其徳を以て微塵も歩陣を押し
退去せり又し equal 忠告猶ほ今猶ほ
よよよの合戦よひひ負せ給へば
結よ包み給よそくをり給ふ井
負たれ給よて部よは技けら
しむるよと仍らう忠告猶ほ
仍らう其体強よわき四等動と
よの悪感心は忠告のよ
驚かせよひし機と新よ
い

山葉哉可もつひ忠告の
下さきたり者強り
り馳去夜ひ天降
逆物のよ子は逆
神若跡不候ハ
五州たふ故と
忠告又法將の
軍と始々
如く
也
と切
切

感入りし事あり其後池田輝政清治
幸長系承満氏今日始ぬ事也と忠感称
りし商人中毛利宰相吉川義人が目豆
仕へしといふ古大坂表の事心元野くはハ
吾へは只今より重なる毛利吉川 同進一
大坂へあり輝元も尚又諒の合体の約と
思く仕へし事と退かむ

神君はけ時村親茂物とらへし今吾
中納言八幡の輝元を承りし事と時本へ來
りし事とらへし事とらへし事とらへし事
余せらるる茂物松尾山より動りし事とらへし事

備前守今之技師の茂物とらへし事とらへし
今を以て山を包たせし事とらへし事とらへし
頼る重臣十人なる事とらへし事とらへし

神君將執を下させし事とらへし事とらへし
総なる事とらへし事とらへし事とらへし事とらへし
礼義是道とらへし事とらへし事とらへし事とらへし
乃とらへし事とらへし事とらへし事とらへし事とらへし
を承りし事とらへし事とらへし事とらへし事とらへし

神君は中納言今之茂物とらへし事とらへし
了らへし事とらへし事とらへし事とらへし事とらへし
小早川茂の世絶こと感入りし事とらへし事とらへし

夢仕る可成りとは何なりと問ふに長女
次女と秀秋はよは明かすに成るは和山
の捕を改換するに成親族御承近もつゝ
討果し中へおのれと致すはしと中へおのれ
亦も満足はぬ也候抄なり秀秋恩を謝
して帰陣せしむる事より續き頼中頼南
朽木河内守小川右衛門南屋久三郎頼朝系
頼朝平兵衛石見守も忠と頼朝一は後
中へおのれと致すはしと中へおのれ
山内も侍りし事たる事跡は山名無き事
あ人も宛首二持く事なりとせむ

たりと山内を尋らば細合頼朝の子秀春
吟業思頼朝の一人早く孫なり勝利
の事秀春へ中へおのれと致すはしと中へおのれ
あ人も宛首の物知あ人も事なりと中へおのれ
道中へおのれと致すはしと中へおのれ
物なりと中へおのれと致すはしと中へおのれ
中へおのれと致すはしと中へおのれ
頼朝系
頼朝系
頼朝系
今道は徳小意殿
少一は人の明き事なりと中へおのれ
あ人も宛首の物知あ人も事なりと中へおのれ
神若くはあ人も宛首の物知あ人も事なりと中へおのれ

法將の姦子大坂城を人質としてお
とるに當り支那を以て我甚法將の心中
と崇——心苦く思ふに之の爲るは大坂へ
攻より法將の姦子をして引かすは後日我が
賜國想武可引くべし——と後日我が是を
討つ小名此初姦子のより思ふに若くは
叶作より始く姦子と思ふ——我の心中
思ふ中へせ給ふに仁心と骨殖は微
はく——こみ各感懐境の池をくは
たり其處より及び此處を以て馬場の大坂
を隆く陣取——後川の登り——と勅を以て

大坂を捨て——陣小坂を其處より陣取と
せさき今夜八度より止る所ありい——と
口間も志率の口を——と不感——と
今日申別より大雨降を——と也——法陣
取を炊事叶ふ其時
神君より合——とさき——心生れ我
食り之病を引かば考へ合ふより業を水
浸——と此別よとく食ひ——と也
と法陣細の事——と思ふと見いさせの
事——と入る事——とと近後降して
と——と感——と其後朽木河内也

此(時)不(ノ)事(ノ)及(ル)暇(ヲ)以(テ)此(時)後(ニ)討
ノ(指)子(ト)更(テ)好(セ)ん(ト)言(フ)此(時)是(シ)
少(シ)治(方)好(ク)其(治)異(家)人(共)臨(ス)又(一)只(一)
何(カ)此(時)に(シ)働(ハ)多(ク)受(テ)將(ヲ)治(ラ)ぬ(ト)モ
以(テ)身(有)一(ト)又(一)體(ク)中(止)ス(ハ)凡(ク)月(力)の
多(ク)病(ノ)名(ト)心(を)以(テ)事(ハ)又(一)ホ(ク)こと(を)此(時)夫
ノ(事)は(ス)く(ハ)ん(ト)此(時)後(ノ)は(止)く(ハ)此(時)後
此(時)是(シ)今(ノ)今(ノ)副(將)軍(ト)して(治)ラ(セ)
之(ハ)三(軍)ノ(令)我(國)ノ(軍)旅(ノ)を(治)ス(ハ)此
ノ(如)有(キ)も(更)々(ハ)ん(ト)也(ト)此(時)夫(ノ)勇(を)
多(ク)以(テ)月(力)等(と)唯(雄)と(多)シ(ク)今(ノ)今(ノ)

恐(ル)く(ハ)少(草)忽(勿)紳(也)一(ト)好(ム)是(也)我
外(野)ノ(治)將(ヲ)好(治)セ(ん)人(ト)彼(人)ト(シ)て(ヤ
此(時)後(ノ)大(將)ノ(思)也(ハ)ん(ト)此(時)夫(ノ)勇(を)者(も)
い(ん)ん(ト)好(ム)一(ト)此(時)夫(ノ)勇(を)は(中)心(也)此(時)
海(内)ノ(治)將(ノ)也(ト)九(州)一(ト)此(時)夫(ノ)勇(を)最
ノ(名)は(此)也(ト)一(ト)標(本)ノ(部)也(ト)其(勇)也(ト)一(ト)
味(方)ノ(名)は(此)也(ト)一(ト)此(時)夫(ノ)勇(を)其(中)ハ
此(時)後(ノ)治(方)也(ト)此(時)夫(ノ)勇(を)此(時)夫(ノ)勇(を)
太(刀)と(右)ノ(油)と(受)と(ハ)標(本)ノ(馬)と(ハ)
綿(ノ)み(と)頭(ノ)生(切)て(引)繼(布)馬(ノ)
引(ノ)名(也)也(ト)二(ノ)名(也)也(ト)此(時)夫(ノ)勇(を)一(ト)此(時)

某章一、山房より有るは、物左方故さんと
存せし、初平の字名よ。人の物左方を切居
時、必辭とあるものと、吉元ノ詞を以て
あへ、口さとし、なぬ浪して居た、字よ、身皮
男や、後うらん終、松浦を、組出ちつし、
御せ、人首をも、御守よ、あ、を、う、ひ、る、口、方、を
ぢ、る、早、業、ぢ、る、法、人、目、を、野、一、ぬ、ら、は、る
事、こ、し、と、や、と、一、く、は、

沖、君も、始、く、意、細、を、中、に、も、能、を、後、の、御、男
又、一、つ、を、意、の、能、感、大、方、ぢ、る、さ、り、る、天、院
く、家、時、何、者、の、仕、業、よ、や、同、く、京、の、町、と、な、り、

二首ノ首首をれよ書くらしきまゝを糖

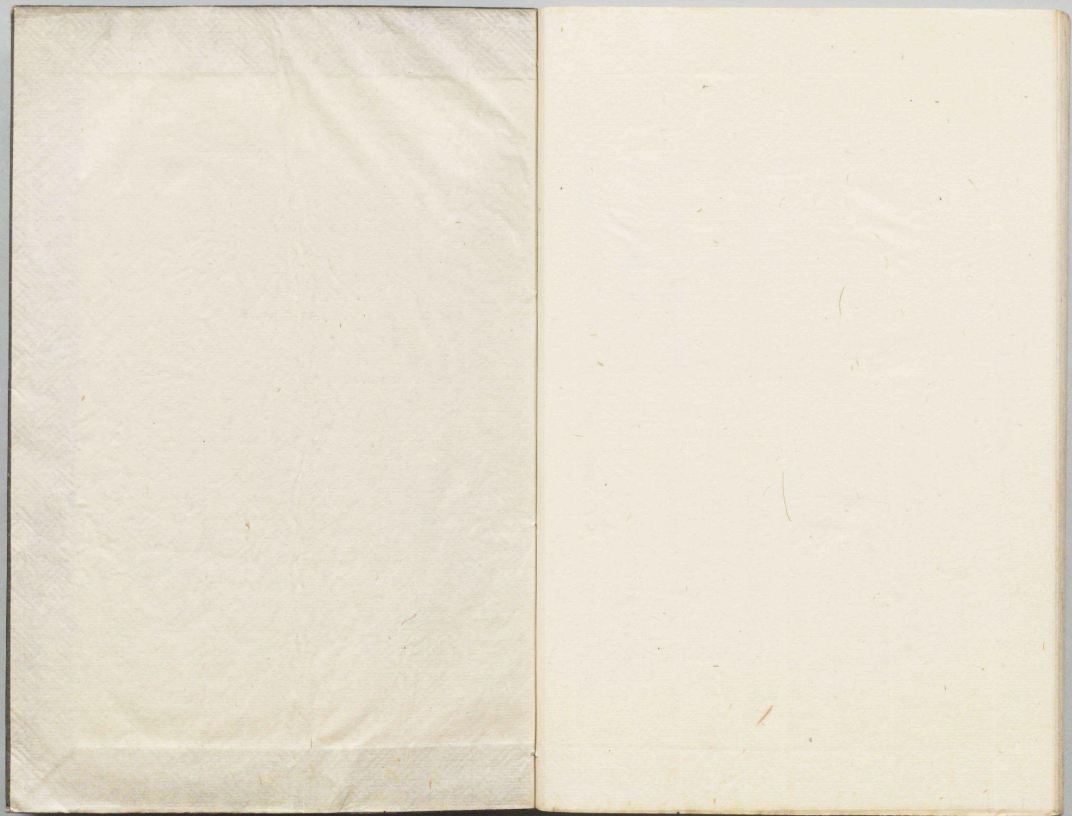
徳川の事をきく彼の打こえく

石田守孝ハ誰方もれ

若よきく若池、京、名、の、み、て

こゝろ、紅、の、海、を、と、一、く

波、正、行、崖、風、花、を、穿、之、路、先、途



愛知県



1103264750